

第5学年

～資料を用いた文章の効果を考え、
それを生かして書こう～

「固有種が教えてくれること／
グラフや表を用いて書こう」





第5学年国語科学習指導案

↑
ワークシート

1組	児童数 33名	1 / 7
2組	児童数 36名	4 / 7
3組	児童数 35名	3 / 7
4組	児童数 34名	7 / 7

1 単元名 資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして書こう

教材名 「固有種が教えてくれること／グラフや表を用いて書こう」（光村図書 5年）

2 単元目標

◎文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付け、資料の効果について考えたことをまとめることができる。

・情報と情報との関係付けの仕方を理解して使うことができる。 [知識及び技能（2）イ]

・文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。

[思考力、判断力、表現力等 ウ]

・粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、筆者の工夫を読み取ろうとする。

[学びに向かう力、人間性等]

3 単元評価標準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報と情報との関係付けの仕方を理解して使っている。	・「読むこと」において、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。	・粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、筆者の工夫を読み取ろうとしている。

4 単元について

（1）これまでの学習経験

4年生では、「思いやりのデザイン／アップヒルーズで伝える」や「ウナギのなぞを追って」などの単元で、資料の効果について筆者の工夫を見付ける学習を行ってきた。5年生では、「見立てる／言葉の意味が分かること」において、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することを学習してきた。さらに、今年度行った学習習得確認調査では、説明的な文章の設問において、本校の5年生の平均点が世田谷区の平均点よりも高い結果が出た。このことから、4年生までの説明的な文章の基本的な読み方が身に付いてきているということが分かる。

また、タブレット端末を利用して友達と交流し、より良い文章にするために加筆修正する経験をしてきている。

(2) 本教材について

本教材は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合単元である。

「固有種が教えてくれること」では、形式段落ごとに何が書かれているのか捉え、それを手掛けたりとして必要な情報を見付けたり、文章と図表を結び付けたりして読むことが必要となる。「うさ松の秘伝書」を活用し、資料には、補足型資料・データ型資料・イメージ型資料の3つがあることを確認し、それぞれの効果と筆者の工夫に気付かせる。また、資料の効果について個人で考えたり、グループで交流したりするなどの学び方で理解を深める。

第一次では、導入として4年生で学習した「ウナギのなぞを追って」を第1教材として使用し、文章のみの意見文と比較することで、資料を用いた文章のよさに気付かせる。第二次では、第1教材で習得したことを活用して第2教材「固有種が教えてくれること」の読み取りをしていく。第二次の終わりには、教材での学習を振り返り、筆者の考えや自分が資料を用いた意見文を書くときに生かしたいことなど、図表の効果に触れながら考えをまとめる。第三次では、社会生活に関わる様々な統計資料の中から目的に合った資料を選び、資料を用いた説得力のある意見文を書くことで、個の学びの深まりが自覚できるようにする。

5 研究主題に迫るための手立て（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

(1) 授業の流れを示す掲示物（視覚化）

単元計画や1単位時間の授業の流れを提示することにより、見通しをもって学習に取り組むことができると思った。児童自身が、学習活動を理解し、主体的に学習できるようにした。

(2) 言語活動（焦点化）

自分の意見をグラフや表などの統計資料を用いて書くという言語活動を設定した。単元の導入では、資料のある意見文と無い意見文を提示することで、そこから資料の効果について考えることができるようとした。図表の効果を生かして書くという活動の見通しをもたせるようにする。

(3) 習得活用を意識した学習計画（焦点化）

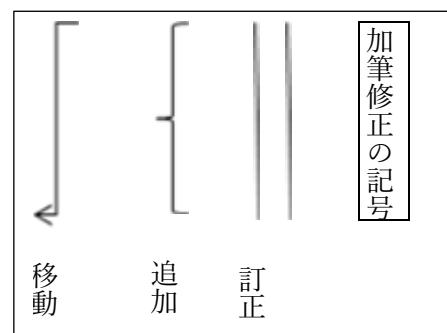
第一次では、第1教材「ウナギのなぞを追って」を通して、本文と資料の結び付けや資料の効果について習得する。第二次では、第2教材「固有種が教えてくれること」で、第一次の学習を生かしながら、本文と資料を結び付けての読み取りと資料を用いた文章の効果を捉えさせていく。第三次では、学びの発展として、児童自身でグラフや表を用いて文章を書くことを設定した。環境・スポーツ・交通・安全・災害などの資料を用意し、選択できるようにする。

(4) うさ松の秘伝書の活用（焦点化）

説明的な文章の構成や要旨をまとめるときのポイント、接続語など、学習する上で基礎・基本となることをいつでも確認できるように「うさ松の秘伝書」を活用してきた。また、資料、表やグラフの効果について大事なポイントを押さえ、読み取りの手掛けたりになるようにする。

(5) 個の学びが生かされる交流活動の工夫（共有化）

児童が自分で取り組んだ課題をタブレット端末で撮影し、ロイロノートに提出して交流していく。そうすることで、1度に多くの意見を見ることができ、友達の考え方の工夫や表現の工夫が共有しやすく、加筆修正もしやすいと考えた。また、資料の効果を考える際には、グループで交流し検討する時間を設定する。ホワイトボードを使って資料の効果についてグループでまとめ、理解を深めることができるようとする。



6 学び方（「うさ松の秘伝書」の項目番号）

言語形式 様々な説明的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
1. 形式段落に分ける。(⑪) 2. 説明文の文章構成を理解する。 (⑭⑯⑰⑲) 3. 筆者の考えは、初めと終わりの段落にあることが多い。(㉕)	1. 形式段落は①～⑪に分かれる。 2. 「 <u>初め</u> (形式段落①②)」導入・筆者の考え方 「 <u>中1</u> (形式段落③～⑦)」事例：固有種の多さとその理由 「 <u>中2</u> (形式段落⑧～⑩)」事例：日本の現状 「 <u>終わり</u> (形式段落⑪)」筆者の考え方 3. <u>形式段落②</u> 「わたしは、この固有種たちがすむ日本の環境を、できるだけ残していきたいと考えています。」 <u>形式段落⑪</u> 「わたしたちは、固有種がすむ日本の環境をできる限り残していくなければなりません。それが、日本にくらすわたしたちの責任なのではないでしょうか。」
4. 図やグラフを読み取る。(⑭) 資料の種類について知る。(⑯) 「 <u>補足型資料</u> 」「 <u>データ型資料</u> 」「 <u>イメージ型資料</u> 」	4. 資料1 「日本とイギリスの陸生ほ乳類」 <u>データ型</u> 資料2 「日本列島の成り立ち」 <u>補足型</u> 資料3 「1年間の平均気温」 <u>データ型</u> 資料4 「標高」 <u>データ型</u> 資料5 「絶滅したとされる動物」 <u>イメージ型</u> 資料6 「天然林等面積の推移」 <u>データ型</u> 資料7 「全国のニホンカモシカほかく数」 <u>データ型</u>
5. 資料と文章を結び付けて読む。	5. 資料について書かれている文章の範囲を <u>囲む</u> 。 資料と文章とを矢印で結び付けて読み取る。
6. 資料の効果について考える。	6. 「この資料で表すことで、～を伝えたいのではないか。」「もし、このグラフがなかったら、～。」
7. 交流する。(⑮) ・ロイロノートによる書いた文章の交流 ・グループ交流による話合い ・ホワイトボードの使用	7. <u>ロイロノートによる交流</u> 友達のまとめたものを見て自分の考えを見直し、加筆修正をする。 <u>グループ交流</u> 資料の効果について、友達の意見と関連付けながら自分の意見を出し、話し合う。
8. 加筆修正する。(⑯)	8. 加筆修正の記号を使って自分の文章を見直す。

7 学習指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	◇支援 ★評価	
第一教材 「ウナギのなぞを追って」	1 本時 五年一組 (習得)	<p>資料を用いた文章のよさを知ろう。</p> <p>○第1教材を読み、資料を用いた文章のよさを知る。</p> <p>○資料と文章を結び付けて、資料の効果について考える。</p> <p>○本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。</p>	<p>○資料がある場合と無い場合の違いを考えること。</p> <p>習得（1） 本文と資料を結び付けること。</p> <p>習得（2） 資料を用いた文章の方が、より考えが伝わること。</p> <p>○資料には、「データ型」「補足型」「イメージ型」の三種類があること。</p> <p>○資料の効果について考えたことを書き込むこと。</p> <p>○資料を用いた意見文を書くという目的をもつこと。</p>	<p>◇資料の有無について関心が高まるようとする。</p> <p>◇本文と資料の結び付け方をおさえる。（秘伝書④）</p> <p>◇自由度の高いワークシートを用意し、読み取ったことを書き込めるようとする。</p> <p>◇第1教材・第2教材・意見文を書く3段階で学習することを捉えられるようとする。</p> <p>★文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けようとしている。</p>	
第二教材 「固有種が教えてくれること」	2	各段落のキーワードを見付けよう。	<p>○学習計画を立てる。</p> <p>○要約メモをつくる。 ・形式段落 ・段落ごとの要約</p>	<p>○学習の見通しをもつこと。</p> <p>○メモを作つて整理すること。</p> <p>○キーワードを見付けること。</p>	<p>◇文章の内容と資料を対応させながら読むようする。</p> <p>◇要約のポイントをおさえる。（秘伝書⑪⑫）</p>
	3 本時 五年三組 (活用①)	資料と本文を結び付けて読もう。	<p>○本文と資料を結び付けて読み、書かれていることを確認する。</p> <p>○次時の学習を確認する。</p>	<p>活用① 習得（1）を使って活用を図ること。</p> <p>○資料には、「データ型」「補足型」「イメージ型」の三種類があること。</p> <p>○資料と対応している文章を図うこと。</p> <p>○文章と資料を対応させて確認すること。</p>	<p>◇本文と資料の結び付け方をおさえる。（秘伝書④）</p> <p>◇自分の考えを見直し、加筆修正できた児童を価値付ける。</p> <p>★文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。</p>

4 本時 五年二組 (活用②)	○資料を用いた文章の工夫について考える。	活用② 習得(2)を使って活用を図ること。	◇資料の種類と働きをおさえる。 (秘伝書⑦) ◇どんな事実が分かりやすくなつたのか、筆者の工夫について気付けるようとする。
5 (応用①)	○本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。		★粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、筆者の工夫を読み取ろうとしている。
	○筆者の考え方と資料の効果について、自分の考え方をまとめよう。	応用① 習得(1)(2)を使って応用を図ること。	◇文章の内容に着目して読み、「中」が分けられることに気付くようになる。 (形式段落③～⑦、⑧～⑩)または (形式段落③～⑥、⑦～⑩) ◇自分の考え方をはつきりするよう、筆者の考え方を引用してまとめるようになる。 ◇読み取ったことをロイロノートで提出し、より多くの児童の意見を見ることができるようになる。 ★粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、筆者の工夫を読み取ろうとしている。

8 本時の指導（1／7時） 5年1組

(1) 目標 文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付け、資料の効果について考える。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
1. 本時のめあてを確認する。	○めあてを確認すること。	
資料を用いた文章のよさを知ろう。		
2. 第1教材「ウナギのなぞを追って」を資料の効果を考えながら黙読する。	○文章のみの教材を渡し、後で資料を提示すること。 ○資料がある場合と無い場合の違いを考えること。	◇文章のみと、資料を用いて書いた文章を提示し、考えが分かりやすくなることをおさえる。(全) ◇資料の有無について関心が高まるようにする。(全)
■文章と資料を対応させることができない。		
3. 文章と資料を結び付ける。 マイタイム	○資料について書かれている文章を囲むこと。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">習得（1） 表やグラフに入っているキーワードから、資料について説明していく文章を見付けること。</div>	◇本文と資料の結び付け方をおさえる。(秘伝書⑧) (全) ◇中心文を見付けられるよう声掛けをする。(個) ◇自由度の高いワークシートを用意し、読み取ったことを書き込めるようする。(個) ◇ロイロノートにワークシートを提出させ、多くの児童の考えを見ることができるようする。(全)
4. グループで交流する。 シェアタイム プラスタイム	○資料を用いた文章の方が、より考えが伝わること。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">習得（2） 資料を見ると、文章の内容を詳しく読み取ることができること。</div>	
○資料には、「データ型」「補足型」「イメージ型」の3種類があること。		
5. 全体で交流する。 フォローアップタイム	○資料の効果について考えたことを書き込むこと。	◇資料の種類と働きをおさえる。 (秘伝書⑦) (全)
○文章の書き直し方を確認する。 (秘伝書④) (個)		
6. 自分の考えを見直し、加筆修正をする。 プラスタイム		
○第1教材・第2教材・意見文を書く3段階で学習することを捉えられるようする。(全)		
7. 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。	○学習の見通しをもつこと。 ○資料を用いた意見文を書くという目的をもつこと。	★文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けようとしている。

8 本時の指導（3／7時） 5年3組

(1) 目標 文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	
資料と本文を結び付けて読もう。		
2. 本文と資料とを結び付ける。 マイタイム	<p>活用① 習得(1)を活用し、本文と資料を結び付けること。</p> <p>■本文と資料とを結び付けることができない。</p>	<p>◇本文と資料の結び付け方をおさえる。(秘伝書⑧) (全)</p> <p>◇初めは教師と共に読み取り、学習の仕方が定着するようする。(個)</p>
3. グループで交流する。 シェアタイム プラスタイム	<p>○本文と資料をどのように結び付けたかをグループごとに話し合い、加筆修正すること。</p>	<p>◇ロイロノートにワークシートを提出し、多くの児童の考えを見る能够ができるようにする。(全)</p>
4. 全体で交流する。 フォローアップタイム	<p>○提示資料は7つあること。 ○資料には、「データ型」「補足型」「イメージ型」の三種類があること。</p> <p><u>データ型</u> 資料1「日本とイギリスの陸生ほ乳類」 資料3「1年間の平均気温」 資料4「標高」 資料6「天然林等面積の推移」 資料7「全国のニホンカモシカほかく数」</p> <p><u>補足型</u> 資料2「日本列島の成り立ち」</p> <p><u>イメージ型</u> 資料5「絶滅したとされる動物」</p>	<p>◇資料の種類と働きをおさえる。(秘伝書⑦) (全)</p>
5. 自分の考えを見直し、加筆修正をする。 プラスタイム	<p>○本文と資料の結び付け方を確認し、加筆修正すること。</p>	<p>◇自分の考えを見直し、加筆修正できた児童を価値付ける。(全)</p>
6. 次時の学習を確認する。	<p>○学習の見通しをもつこと。</p>	<p>★文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けている。</p>

8 本時の指導（4／7時） 5年2組

(1) 目標 資料を用いた文章の工夫について話し合い、資料の効果について考えたことをまとめること。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇前時の学習を振り返ることで、学習の定着につながるようにする。(全)
資料を用いた文章の工夫について考えよう。		
2. 資料を用いた文章の工夫について考える。 マイタイム	■内容に応じた効果的な資料の活用方法について考えることができない。	◇資料の種類と働きをおさえる。(秘伝書⑦) (個)
3. グループで交流する。 シェアタイム	○資料を用いた文章の工夫をグループごとに話し合い、加筆修正すること。	◇筆者はどんなことを伝えたかったのかを考えるよう声掛けをする。(個)
4. 全体で交流する。 フォローアップタイム	<p>活用② 習得(2)を活用し、資料を用いた文章の工夫を考えること。</p> <p>○資料は、筆者の考えを裏付けるために示されていること。</p> <p>○資料を用いた文章の工夫について考えること。</p> <p>○資料を用いることが、筆者の工夫であること。</p> <p>○資料を見ると、文章の内容をくわしく読み取ることができること。</p>	<p>◇資料があることで分かりやすくなった点を挙げているグループを価値付けする。(全)</p> <p>◇どんな事実が分かりやすくなったのか、筆者の工夫について気付けるようにする。(全)</p> <p>★粘り強く文章と図表などを結び付けて読み、筆者の工夫を読み取ろうとしている。</p>
5. 自分の考えを見直し、加筆修正をする。 プラスタイム	○資料を見ると、文章の内容をくわしく読み取ことができること。	
6. 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。	○資料の効果を考えながら、自分の考えをまとめていくという次時の見通しをもつこと。	

8 本時の指導（7／7時） 5年4組

(1) 目標 図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫する。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
資料の効果を生かして書こう。		
1. 書くポイントに合わせて、文章構成を考え、資料の効果を生かして400字程度の文章でまとめる。 マイタイム	<p>応用② 応用①で考えたことをもとに、資料の効果を生かして、文章を書き、友達の文章を読んで自分の考えを広げること。</p> <p>○初めに自分の考え、中に考え方の整理と裏付ける資料の説明、終わりに結論を書くようにすること。</p> <p>■テーマに沿って、自分の意見をまとめることができない。</p> <p>○下書きや、メモ書き等で整理すること。</p> <p>○資料を効果的に使う方法を考えること。</p> <p>○理由や根拠をはっきりさせること。</p> <p>○読み合う際の感想やアドバイスの視点を全体で共有すること。</p> <p>観点 ・どんな資料かを述べているか。 ・資料と文章を対応させているか。 ・資料のどの部分に注目してほしいか。 ・資料から、考えられることと自分の考えを分けて書いているか。</p>	<p>◇考えをもちづらい児童には、資料から自分の考えを見付けるよう声掛けを行う。(個)</p> <p>◇考えや文章をまとめることができ苦手な児童には、書き方のヒントとなる補助プリントを渡す。(個)</p> <p>◇作成した文章をロイロノートに提出し、全体共有に生かせるようにする。(全)</p> <p>◇他の児童の文章を読むときの、視点を揭示する。(全)</p>
2. グループで交流する。 感想やアドバイスを伝え合う。 シェアタイム		
3. 自分の文章を見直し、加筆修正をする。 プラスタイム	<p>○グループの交流をもとに自分の文章を見直し、加筆修正すること。</p>	<p>◇加筆修正の仕方を提示する。(全)</p>
4. 本時の学習を振り返る。	<p>○資料を効果的に用いた文章のよさを振り返ること。</p>	<p>★情報と情報との関連付けの仕方を理解して使っている。</p>